

目次

- 第一章 総則（第一条～第三条）
 - 第一節 利用運送業務等
 - 第一節 利用運送の申込み及び引受け（第二条（第十六条）
 - 第二節 積付け（第十七条）
 - 第三節 貨物の受取及び引渡し（第十八条 第二十五条）
 - 第四節 指図（第二十六条、第三十条）
 - 第五節 事故（第二十八条、第三十条）
 - 第六節 運賃、料金等（第三十一条（第三十七条）
 - 第七節 責任（第二十八条、第三十条）
- 第二章 積込み又は取卸し等（第五十一条（第五十四条））

第一章 総則

第一条 当店は、貨物自動車運送事業者が行う貨物の運送に係る第 一種貨物利用運送事業（貨物利用運送事業法（平成元年法律第八十号） 第三条第七項に規定する事業をいう。）を行います。

2 当店は、前項の事業に附帯する事業を行います。

（適用範囲）

第 一 条 当店の経営する貨物利用運送事業は、この約款の定めるところにより、この約款に定めのない事項については、法令又は一般の慣習に拘ります。

2 当店は、前項の規定にかかわらず、法令に反しない範囲で、特約の申込みに応じることがあります。

第 二 章 利用運送業務等

第一節 利用運送の申込み及び引受け

（交付日時）
第 三 条 当店は、受付日時を定め、店頭に掲示し、又は当店のウェブサイトに掲載します。

2 前項の受付日時を定ずる場合には、あらかじめ店頭に掲示し、又は当店のウェブサイトに掲載します。

（利用運送の順序）

第 四 条 当店は、利用運送の申込みを受けた順序により、貨物の利用運送を行います。ただし、取敢又は受領しやすう貨物を運送する場合その他正当な事由がある場合は、この限りではありません。

（引渡期間）

第 五 条 当店の貨物の引渡期間は、次の日数を合算した期間とします。

- 一 発送期間 貨物を受け取った日を含め一日
- 二 輸送期間 運送及び料金の計算の基礎となる輸送距離百十キロメートルにつき一日、ただし、一日未満の端数は、一日とします。
- 三 集配期間 集貨及び配達をする場合にあつては各一日

2 前項の規定による引渡期間の満了後、貨物の引渡があつたときは、これをもって延着とします。

（利用運送の申込み）

第 六 条 当店は、貨物の利用運送を申込む者（以下「申込者」という。）は、次の事項を記載した利用運送申込書を提出しなければなりません。

- 一 申込者の氏名又は商号並びに住所及び電話番号
- 二 貨物の品名、品量及び重量又は容積並びにその荷造りの種類及び個数
- 三 集貨及び配達又は発送及び到着地の希望日時
- 四 集貨先及び配達先又は発送地及び到着地（印地、アパートその他高層建築物にあつては、その名称及び電話番号を含む。）
- 五 運送の扱別
- 六 運賃、料金（第三十二条に規定する待機時間料、第五十一条に規定する積入費又は取卸し及び第五十二条第一項に規定する附帯業務料等をいう。） 燃料サ ーチャージ、有料道路利用料、立替金その他の費用（以下「運賃、料金等」という。）の支払方法
- 七 荷受人の氏名又は商号並びに住所及び電話番号
- 八 高価品については、貨物の種類及び価格
- 九 第五十一条に規定する貨物の積込又は取卸しを委託するときは、その旨
- 十 第五十一条に規定する附帯業務を委託するときは、その旨
- 十一 運送保険に付することを委託するときは、その旨
- 十二 特約事項があるときは、その内容
- 十三 本約款の内容について承諾する旨
- 十四 その他その貨物の運送に關する事項

2 前項において、当店が電磁的方法（電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法であつて当店で定めるものをいう。以下同じ。）により利用運送の申込み方法を選定しているときは、前項利用運送申込書の提出に代えて、当該利用運送申込書に記載すべき事項を電磁的方法により提出することができま す。この場合において、申込者は、当該利用運送申込書を提出したものとみなします。

（利用運送の引受け）

第 七 条 当店は、前条第一 項の利用運送申込書の提出があつた場合において、申込者の協議により、当該利用運送を引受けることとするときは、次に掲げる事項を記載した利用運送引受書を交付します。

- 一 集貨及び配達又は発送及び到着の予定日時
- 二 運賃、料金等の額
- 三 運送に適合する設備を有する貨物自動車運送事業者を確保できないとき
- 四 当該利用運送に關し、申込者から特別の負担を求められないとき
- 五 当該利用運送が、法令の規定又は公の秩序若しくは善良の風俗に反するものであるとき
- 六 天災その他やむを得ない事由があるとき

（貨物の種類及び性質の通知）

第 八 条 当店は、貨物の利用運送の申込みがあつたときは、貨物の種類及び性質を通知することを申込者に求めることがあります。

2 当店は、前項の場合において、貨物の種類及び性質につき申込者が告げたことに疑いがあるときは、申込者の同意を得て、その立会いの上で、これを点検することがあります。

3 当店は、前項の規定により点検をした場合において、貨物の種類及び性質が申込者の通知したところと異なるときは、これにより生じた損害の賠償をします。

4 当店は、第 一 項の規定により点検をした場合において、貨物の種類及び性質が申込者の通知したところと異なるときは、申込者に点検に要した費用を負担しいただきます。

（引渡拒絶）

第 九 条 当店は、次の各号の一に該当する場合には、利用運送の引受けを拒絶することがあります。

- 一 当該利用運送の申込みが、この約款によらないものであるとき
- 二 申込者が、前条第一項の規定による通知をせず、又は同条第一 項の規定による点検の同意を与えないとき
- 三 運送に適する設備を有する貨物自動車運送事業者を確保できないとき
- 四 当該利用運送に關し、申込者から特別の負担を求められないとき
- 五 当該利用運送が、法令の規定又は公の秩序若しくは善良の風俗に反するものであるとき
- 六 天災その他やむを得ない事由があるとき

（高価品の取扱い）

第 十 条 この約款において高価品とは、次に掲げるものをいいます。

一 貨幣、紙幣、銀行券、印紙、郵便手及び公債証券、株券、債券、商品券その他の有価証券並びに金、銀、白銀その他の貴金属、イリジウム、タングステンその他の稀貴金属、金剛石、紅玉、緑柱石、琥珀その他の宝玉石、象牙、べつ甲、珊瑚及び各その製品

二 美術品及び骨董品

三 楽器及び骨董品

四 容積及び荷造りを加へ、キログラム当たりの価格が一万円を超える貨物（動物を除く。）

2 前項第二号のキログラム当たりの価格の計算は、一荷造りごとに、これをします。

3 この約款において貴重品とは、第二項第一号及び第二 号に掲げるものをいいます。

（運送の扱別等不申の場合）

第 十 一 条 当店は、荷受人（第七条第一項の利用運送引受書の交付を受けた申込者という。以下同じ。）が利用運送の申込みをするにあたり、運送の扱別その他の貨物の運送に關し必要な事項を明示しなかつたときは、荷送人にとって最も有利と認められることにより、当該貨物を運送します。

（荷造り）

第 十 二 条 荷送人は、貨物の性質、重量、容積、運送距離及び運送の扱別等に応じ、運送に耐えるように荷造りをしなければなりません。

2 当店は、貨物の荷造りが十分でないときは、必要な荷造りを要求し、荷送人はその要求に応なければなりません。

3 当店は、荷造りが十分でない貨物があつても、他の貨物に対し損害を与えない認め、かつ、荷送人が書面により荷造りの不備による損害を負担することを承諾したときは、その利用運送を引き受けることがあります。

（外装装束等）

第 十 三 条 荷送人は、貨物の外装に次の事項を見やすいように表示しなければなりません。ただし、当店が必要がなと認めた事項についてはこの限りであります。

一 荷送人及び荷受人の氏名又は簡易及び住所

二 品名

三 個数

四 その他貨物の取扱いに必要な事項

2 荷送人は、当店が認めたときは、前項各号に掲げる事項を記載した荷れをもって前項の外装装束に代えることができます。

（動物の運送）

第 十 四 条 当店は、動物その他特殊な管理を要する貨物の利用運送を引き受けたときは、荷送人は荷受人に対して次に掲げることを請求することがあります。

一 当店において、集貨、積込み又は引取りの日時を指定すること。

二 当該貨物の運送につき、付添人を付すること。

（危険品の運送）

第 十 五 条 荷送人は、爆発、発火その他運送上の危険を生ずるおそれのある貨物については、あらかじめ、その旨を当店に通知するとともに、その品名、性質その他の当該貨物の安全な運送に必要な事項を送り状に明記し、かつ、これらの事項を当該貨物の外部の見やすい箇所に明示しなければなりません。

（代客運送）

第 十 六 条 当店は、荷送人の利益を書しない限り、利用運送を引き受けた貨物の運送を他の運送機関による運送に変更することがあります。

2 前項の場合において、運送上の責任は、この約款により当店に負います。

（積付け）

第 十 七 条 貨物の積付けは、当店の責任においてこれを行います。

2 シート、ロープ、建木、台木、充てん物その他の積付用品は、通常貨物自動車運送事業者が備えているものを除き、荷送人又は荷受人の負担とします。

（第三節 貨物の受取及び引渡し）

（受取及び引渡しの場所）

第 十 八 条 当店は、利用運送申込書に記載された集貨先又は発送地において荷送人又は荷送人の指定する者が貨物を受け取り、利用運送申込書に記載された配達先又は到達地において荷受人又は荷受人の指定する者が貨物を引き渡します。

（荷運者等に対する引渡）

第 十 九 条 当店は、次の各号に掲げる場合には、当該各号に掲げる者に対する貨物の引渡をもって荷受人に対する引渡しとみなします。

- 一 荷受人が引渡先には不在の場合には、その引渡先における同居者、従業員又はこれに準ずる者
- 二 船舶、寄留貨、旅館等が引渡先の場合には、その管理者又はこれに準ずる者

（高価品の引渡）

第 十 一 条 当店は、貨物に關し引取るべき運賃、料金等又は品代金等の支払を受けなければ、当該貨物の引渡をしません。

2 商人である荷送人が、その営業のために当店と締結した運送契約について、運賃、料金を所定期日までに支払わなかつたときは、当店は、その支払を受けなければ、当該荷送人との運送契約について当店が占有する荷送人所有の貨物の引渡しをしないことがあります。

（指図の催告）

第 十 二 条 当店は、荷受人を確知することができない場合は、遅滞なく、荷送人に対し、相当の期間を定めて、その貨物の処分につき指図することを催告することがあります。

2 当店は、荷受人が、貨物の受取を拒み、又はその他の理由によりこれを受け取ることができない場合には、遅滞なく、荷受人に対し、相当の期間を定め、その貨物の受取を催告し、その期間経過後、さらに荷送人に対し、前項に規定する指図と同じ内容の催告をすることがあります。

（引渡不能の貨物の委託）

第 十 三 条 当店は、荷受人を確知することができない場合は前条第一 項の場合には、荷受人の費用でその貨物を倉庫當業者に委託することがあります。

2 当店は、前項の規定により貨物の委託をしたときは、遅滞なく、その旨を荷送人又は荷受人に対して通知します。

3 当店は、第一項の規定により貨物の委託をした場合において、倉庫証券を作つてきたときは、その証券の交付をもって貨物の引渡しに代充することを催告することがあります。

4 当店は、第一項の規定により委託をした貨物の引渡しの際に集貨があつた場合において、当該貨物につき、倉庫証券を作つたときは、運賃、料金等及び委託に要した費用の弁済を受けるまで当該倉庫証券を留置することがあります。

（引渡不能の貨物の供託）

第 十 四 条 当店は、荷受人を確知することができない場合は第二十一条第一項の場合には、その貨物を供託することがあります。

2 当店は、前項の規定により貨物の供託をしたときは、遅滞なく、その旨を荷送人又は荷受人に対して通知します。

（引渡不能の貨物の販売）

第 十 五 条 当店は、第二十一条第一項の規定より荷送人に対して指図すべきことを求めた場合において、荷送人が指図をしないときは、その貨物を販売することがあります。

2 当店は、前項の規定にかかわらず、損傷その他の事由による価格の低落のおそれがある貨物は、第二十一条の催告をしないで販売することがあります。

3 当店は、前項の規定により貨物の販売をしたときは、遅滞なく、その旨を荷送人又は荷受人に対して通知します。

4 当店は、第一項又は第二項の規定により貨物の販売をしたときは、その代価をもって運賃、料金等並びに催告及び販売に要した費用に相当し、不足があるときは、荷送人にその支払を請求し、余額があるときは、これを荷送人に交付し、又は供託します。

（引渡不能の貨物の任意売却）

第 十 六 条 当店は、荷受人を確知することができない場合は第二十一条第一項の場合において、その貨物が取敢又は受領しやすういものであつて、同条手続きをとるときとまがないときは、その手続きによらず、公正な第三者を立てて、これを売却することがあります。

2 前項の規定による売却には、前条第三項及び第四項の規定を準用します。

（指図に応じない場合）

第 十 七 条 当店は、運送上の支障が生ずるおそれがある認める場合には、前条第一項の規定による指図に応じないことがあります。

2 前項の規定により、指図に応じないときは、遅滞なく、その旨を荷送人に対して通知します。

（第五節 事故）

（事故の際の措置）

第 十 八 条 当店は、次の場合には、遅滞なく、荷送人に対し、相当の期間を定め、その貨物の処分につき指図を催告します。

一 貨物の著しい滅失、損傷その他の損害を発生したとき

二 当初の運送経路又は運送方法によることができなくなつたとき

三 相当の期間、当該運送を中断するを得ないとき

2 当店は、前項の場合において、指図を要しとまがないとき又は法で定めた期間に前項の指図がないときは、荷受人の利益のために、当店の裁量によつて、当該貨物の運送の中止若しくは返送又は運送経路若しくは運送方法の変更その他の適切な処分をすることがあります。

3 第一項の規定による指図には、前条の規定を準用します。

（危険品の処分）

第 十 九 条 当店は、第十五条の規定による通知及び明記をしなかつた爆発、発火その他運送上の危険を生ずるおそれのある貨物について、必要に応じ、いつでもその取卸し、破壊その他運送上の危険を除去するなどの処分を行うことができます。同条の規定による通知及び明記をした場合において、当該貨物が他に損害と及ぼすおそれ生じたときも同様とします。

2 前項前段の処分に必要な費用は、すべて荷送人の負担とします。

3 第一項の規定による処分をしたときは、遅滞なく、その旨を荷送人に通知します。

（事故証明書の発行）

第 十 一 条 当店は、貨物の全部滅失に關し証明の請求があつたときは、その貨物の引渡期間の満了の日から一月以内に限り、事故証明書を発行します。

2 当店は、貨物の一部滅失、損傷又は延着に關し、その数量、状態又は引渡しの日時につき証明の請求があつたときは、当該貨物の引渡しの日に限り、事故証明書を発行します。ただし、特別の事情がある場合は、当該貨物の引渡しの日以降においても、発行することがあります。

（第六節 運賃、料金等）

第 十 二 条 運賃、料金等（燃料サ ーチャージを除く。）及びその適用方法は、当店が別に定める運賃料金表によります。

2 前項の運賃、料金等について、調運する燃料の市場価格に応別に定めるところにより、燃料サ ーチャージを収受します。

3 第三項の運賃、料金等について、荷送人又は当店の一方は、黄金水準又は物価水準の変動により運賃、料金等の額が不適となったと認めるときは、他の一方に対し、額の差の協議を求めることができま す。

（運賃、料金等の取付方法）

第 十 三 条 当店は、貨物を受け取るときまでに、荷送人から運賃、料金等を収受します。

2 前項の場合において、運賃、料金等の額が確定しないときは、その概算額の預渡しを受け、運賃、料金等の確定後荷送人にに対し、その過不足を払い戻し、又は追徴します。

3 当店は、第一 項の規定にかかわらず、貨物を引き渡すときまでに、運賃、料金等を荷受人から収受することを認めることがあります。

（待機期間料）

第 十 四 条 当店は、車両が貨物の発地又は着地に到着後、荷送人又は荷受人の責により待機した時間（荷送人又は荷受人（第五十一条の積込み又は取卸し又は第五十一条第一項に規定する附帯業務）を行う場合における待機した時間を含む。）に応じて、当店が別に定める料金を収受します。

（運賃割増）

第 十 五 条 当店は、貨物を引き渡したときまでに、荷送人又は荷受人が運賃、料金等を支払わなかつたときは、貨物を引き渡した日の翌日から運賃、料金等の支払を受けた日までの期間に対し、年利十四・五パーセントの割合で、延滞料の支払を請求することがあります。

（運賃請求権）

第 十 六 条 当店は、貨物の全部又は、一部が天災その他やむを得ない事由により滅失し、若しくは相程度の損傷が生じたときは当該部分が責任を負う事由により滅失したときは、当該滅失し、又は損傷を生た貨物に係る運賃、料金等を請求しません。この場合において、当店は既に運賃、料金の全部又は、一部を収受しているときは、これを払い戻します。

2 当店は、貨物の全部又は、一部がその性質若しくは欠陥又は荷送人が責任を負う事由によつて滅失したときは、運賃、料金その他の費用の全額を収受します。

（事故等と運賃、料金等）

第 十 七 条 当店は、第十六条及び第二十八 条の規定より処分をしたときは、その処分に応じて、又は既に行った利用運送の割合に応じて、運賃、料金等を収受します。ただし、既にその貨物について運賃、料金等の全部又は一部を収受している場合には、不足あるときは、荷送人又は荷受人にその支払を請求し、余額があるときは、これを荷送人又は荷受人に払い戻します。

（中止手数料）
第 十 八 条 当店は、利用運送の中止の指図に応じ、場合には、荷送人が責任を負わない事由によることを除いて、中止手数料を請求することがあります。ただし、荷送人が、利用運送引受書に記載した集貨予定日の三日前までに利用運送の中止をしたときは、この限りではあります。

2 前項の中止手数料は、次のとおりとします。

一 利用運送引受書に記載した集貨予定日の前々日に中止の指図をしたとき 当該利用運送引受書に記載した運賃、料金等の二六パーセント以内

二 利用運送引受書に記載した集貨予定日の前日に中止の指図をしたとき 当該利用運送引受書に記載した運賃、料等の三六パーセント以内

三 利用運送引受書に記載した集貨予定日の当日に中止の指図をしたとき 当該利用運送引受書に記載した運賃、料等の五十六パーセント以内

（第七節 責任）

（責任の始期）

第 十 八 条 当店の利用運送についての責任は、貨物を荷送人から受取つた時に始まります。

（責任と棄絶）

第 十 九 条 当店は、貨物の受取から引渡しまでの間にその貨物が滅失、若しくは損傷し、若しくは他の滅失若しくは損傷の原因が生じ、又は貨物が延着したときは、これによつて生じた損害を賠償する責任を負います。ただし、当店が、自己又は使用人その他の利用運送のために使用した者が貨物の受取、引渡し、保管及び運送について注意を怠らなかつたことを証明したときは、この限りではありません。

（コンテナ貨物の責任）
第 十 一 条 前条の規定にかかわらず、コンテナに詰められた貨物であつて当該貨物積卸しの方法が次に掲げる場合に該当するものの滅失又は損傷について、当店に対し損害賠償の請求をしようとする者は、その損傷が当該貨物の使用その他の利用運送のために用した者の故意又は過失によるものであることを証明しなければなりません。

一 荷送人が貨物を詰めただのであるとき。

二 コンテナの封印に異常がない状態に到着しているとき。

（特殊な措置を要する貨物の運送の責任）

第 十 二 条 当店は、動物その他特殊な管理を要する貨物の運送について、第四十条第一 号の規定に基づき付添人が付された場合には、当該貨物の特殊な管理について責任を負いません。

（荷送人の申告等の責任）

第 十 三 条 当店は、貨物の内容を客観知ることができないものについて、利用運送申込書の記載は荷送人の申告より利用運送引受書に品名、品量、重量、容積又は価額を記載したときは、その記載について責任を負いません。

（利用運送申込書の記載の不実等の責任）

第 十 四 条 当店は、利用運送申込書若しくは外装装束等の記載又は荷送人の申告が不実又は不備であつたために生じた損害については、その責任を負いません。

2 前項の場合において、当店が損害を被つたときは、荷送人はその損害を賠償しなければなりません。

（金貨）

第 十 五 条 当店は、次の事由による貨物の滅失、損傷、延着その他の損害については、損害賠償の責任を負いません。

一 当該貨物の欠陥、自然の消耗、虫害又は鼠害

二 当該貨物の性質による発火、爆発、われ、かび、腐敗、変色、ささその他これに類似する事由

三 同盟罷業、同盟怠業、社会的騒擾その他の事変、強盗

四 不可抗力による火災

五 地震、津波、高潮、大水、暴風雨、地すべり、山崩れその他の天災

六 法令又は公權力の発動による運送の差止め、開封、没収、差押え又は第三者への引渡し

7 荷送人又は荷受人の故意又は過失

（高価品に対する総則）

第 十 六 条 高価品については、荷送人申込みをするにあたり、その種類及び価額を通知しなければ、当店はその滅失、損傷又は延着についての損害賠償の責任を負いません。

2 前項の規定は、次に掲げる場合には、適用しません。

一 運送契約の締結の当時、貨物が高価品であると各当店が知つていたとき

二 当店の故意又は重大な過失によつて高価品の滅失、損傷又は延着が生じたとき

（責任の特別の事由）

第 十 七 条 当店の貨物の一部滅失又は損傷についての責任は、荷受人が異議を認めないで貨物を受け取つたときは、消滅します。ただし、貨物に直ちに発見するところでない損傷又は一部滅失があつた場合において、貨物の引渡しの日から一週間以内に当店に対してその通知を發したときは、この限りではありません。

2 前項の規定は、貨物の引渡しの当時、当店がその貨物に一部滅失又は損傷があることを知つていたときは、これを適用しません。

3 荷送人が第三者から委託を受けた利用運送の一部又は全部を当店が行う場合において、当該貨物の利用運送に係る荷受人が貨物の引渡しの日から一週間以内に、荷送人に対し、貨物に直ちに発見するところでない損傷又は一部滅失あつた旨の通知を發したときは、荷送人に対する当店の責任に係る事項ただし書の期間は、荷送人が当該通知を受けた日から一週間を経過する日まで延長されたものとみなします。

（損害賠償額）

第 十 八 条 貨物に全部滅失があつた場合の損害賠償の額は、その引渡しがされるべき地及び時における貨物の価額につき、これを求めます。

2 貨物に一部滅失又は損傷があつた場合の損害賠償の額は、その引渡しがされるべき地及び時における引き渡されし貨物の価額と一部滅失又は損傷がなかつたときの貨物の価額との差額によつてこれを定めま す。

3 第三十二条第一項の規定により、貨物の滅失又は損傷のため荷送人は荷受人を支払うことを要しない運賃、料金は、前項の賠償額よりこれを控除します。

4 第一項及び第二項の場合において、貨物の価額又は損害額について争いがあるときは、公平な第三者の鑑定又は評定によりその額を決定します。

5 貨物が延着した場合の損害賠償の額は、運賃、料金の総額を限度とします。

第 十 九 条 当店は、前条の規定にかかわらず、当店の設置又は重大なる過失により貨物の滅失、損傷又は延着を生じたときは、一切の損害を賠償します。

（除斥期間）

第 十 一 条 当店の責任は、貨物の引渡がされた日（貨物の全部滅失の場合にあつては、その引渡しがされるべき日）から一年以内に裁判上の請求がされないときは、消滅します。

2 前項の期間は、貨物の滅失等による損害が発生した後を限り、合意により、延長することができま す。

3 荷送人が第三者から委託を受けた利用運送の一部又は全部を当店が行う場合において、荷送人が第一項の期間内に損害を賠償し又は裁判上の請求をされたときは、荷送人に対する当店の責任に係る同項の期間、荷送人損害を賠償し又は裁判上の請求をされた日から三月を経過する日まで延長されたものとみなします。

（賠償に及ぶ権利取得）

第 十 二 条 当店は、貨物の全部の価額を賠償したときは、当店は、当該貨物に關する一切の権利を取得します。

（積込み又は取卸し及び積込又は取卸の責任）

第 十 三 条 当店は、貨物の積込み又は取卸しを引き受けた場合には、当店が別に定める料金又は手数料に要した費用を受領し、当店の責任においてこれを行います。

（附帯業務等及び附帯業務料）

第 十 四 条 当店は、貨物の荷造り、係又は仕立、代りの取立て、立替え、検収及び検品、機材及び包装材、梱入れ、ラベル貼り、又は作業の他の通常貨物利用運送事業に附帯して、その時間、技能、機器等を必要とする業務（以下「附帯業務」という。）等を引き受けた場合には、当店が別に定める料金又は実際に要した費用を収受し、当店の責任においてこれを行います。

2 附帯業務等については、別段の定めがある場合を除き、性質の許す限り、第一 章の規定を準用します。

（品代金の取立て）

第 十 五 条 品代金の取立ての追付又は受領は、その貨物の発送前を限り、これに応じます。

2 当店は、品代金の取立ての委託を受けた貨物を発送した後、荷送人が、当該品代金の取立ての委託を取り消した場合は荷送人若しくは荷受人が責任を負う事により当該品代金の取立てが不能となつた場合は、当該品代金の取立料の増額はしません。

（付保）

第 十 六 条 利用運送の申込みの際し、当店の申出により荷送人が承諾したときは、当店は、荷送人の費用によつて運送保険の締結を引き受けます。

2 保険料その他の運送保険に關する事項は、店頭に掲示し、又は当店のウェブサイトに掲載します。